

2017年12月17日

福音書からのメッセージ

彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。

(ヨハネによる福音書1章7節)

今週の福音書には、洗礼者ヨハネが登場します。洗礼者ヨハネは、しばしば「道備え」と呼ばれます。彼自身は光ではなく、光について証しをするために来たと書かれています。ここでの光とは、イエス様のことです。彼はイエス様をすべての人が信じ、受け入れるために行動していたのです。

昔、山の中にある草木が生い茂った土地で、境界線の杭の位置を確かめたことがあります。三人で一緒に行動したのですが、わたしは始終、二番目に歩いていました。なぜかという、先頭だとどこに行ったらいいかわからなくなるかもしれないし、突然クモの巣に引っかかってしまうと、とても嫌な気分になるからです。かといって、一番後ろも嫌です。ちょっと油断したすきに、前の人を見失ったら大変です。一人だけ迷子になったらと、考えただけでもゾッとします。

だから、真ん中を歩きました。前の人が鎌で切り開くその後を、同じように歩いていきます。前の人がかがんだら同じようにかがみ、前の人ジャンプしたら同じようにジャンプする。そして先頭の人に続いて、境界線の杭を見つけます。

そのときわたしは、汗をかきながらたくさん歩きました。少しだけしんどい思いもしました。でも、先頭を歩いていた人に比べたらどうでしょう。先頭を歩いている人は、終始手を動かし、目を配り、道を切り開いてくれたのです。その人に頼らなければ、杭にはたどり着けなかったかもしれません。道に迷ったかもしれません。先頭で道を切り開く人がいたから、たどり着けた



のです。

洗礼者ヨハネの物語は、わたしたちに二つのことを示しています。ヨハネは「すべての人が彼によって信じるように」なる

ために来ました。彼はわたしたちの先頭で、すべての人を導きます。すべての人には、今、この言葉を聞くわたしたちも入っています。ヨハネが示す道は、とても険しく、歩きづらいかもしれません。でもその道に向かう、その方向に向き直ることが、神さまの方を向くことになるのです。何度違う道を行っても、この場所の方が心地いいとじっとうずくまったとしても、「悔い改めよ、向きなれ」といつも招いてくれる。それが神さまのみ心なのです。

そしてもう一つ。神さまに向き直ろうとするわたしたちに求められていることがあります。それは、わたしたちの後ろにいる人たちのために、自らが道備えとなることです。わたしたち自ら、道備えをしなければならない。そう聞くと、ちょっと躊躇するかもしれませんが、でも、わたしたちは導かれるままに歩けばよいのです。喜びをもって歩むとき、わたしたちは神さまのために道を備える者とされるのです。

クリスマス前のこの時期、わたしたちに求められていることは何か、考えてみましょう。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>